

【センターサポート事例紹介】 高等部3年女子

○重度重複障がい(知的障がい・肢体不自由)

○発達水準：第1層 感覚の世界(Ⅲ水準)～第2層 知覚の世界(Ⅳ水準)

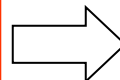
○発語はないが、歩行器で移動できる

相談内容・アドバイス (6月)

カードを使ってやりたい活動を選択させる取り組みをしている。提示の方法や対応する本児の様子を見ていただいて改善点など教えてほしい。



本児の自発的な意思発信につながるよう、教員が提示するのではなく本児が自分から提示できるようなシステムがあるとよい。
例) 小さなカードを貼ったホワイトボードを渡す。



その後の様子・評価



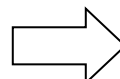
2択での選択には慣れてきた。カードの束を提示すると、めくって希望のカードを指さすこともあるので、その方法も試してみた。トイレカードを指さしたのでトイレに連れて行くと排尿したことが何度かあった。ホワイトボードに本児が好きな活動のカードを貼って選択できるツールを制作して活用してみる。

相談内容・アドバイス (9月)

ホワイトボードを使ってカードを提示する活動の様子をみて、改善点など教えてほしい。



複数の教員でホワイトボードでの対応を進めていき、支援者が変わっても対応できるようにしていく。認知課題など授業のメニューなどをカードで選択式にしていくこともバリエーションとして取り入れていく。



その後の様子・評価



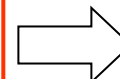
複数の教員でボードを使うようにした。支援者が変わってもカードを選択できた。認知課題も課題ごとのカードを作って活用している。提示の仕方については模索中である。

相談内容・アドバイス (10月)

認知課題の時間もカードを使った提示を取り入れたが、授業の見通しとして活用すべきか、課題を選択させる活動として取り入れるべきか、活用の方法を相談したい。



嫌な物の中から選ぶことは難しいので、2択で提示して選ばせ、できたらご褒美を出す。複数の課題に取り組ませたいときは、2択→ご褒美のサイクルを繰り返すパターンもある。自立の授業内の他の活動(階段、歩行、パルンボリンなど)を2択のカードで選ばせてみてもよいかもしれない。



その後の様子・評価

認知課題の見通しにカードを活用して見通しが立つようになり、以前より落ち着いて複数の課題に取り組めるようになった。課題の一部を2択で選ばせるようにしている。ご褒美の直前の課題が終わりそうになると、そわそわしたり、期待感を出したりする様子が見られた。

◎1年の成果

カードによるコミュニケーションで見通しが立ち、苦手な活動も安定して取り組めるようになった。

◎今後の課題

自発的にカードを使って意思を発信していける力を伸ばしていく。